

Feel the
TECHNOLOGY
五感で実感

どうしてこんなに気持ちがいいの？
誰かに自慢したくなるような、
快適とテクノロジーの素敵な関係。

「オトゴコチ」

音心地

Theme 3

「心地よい音」は、
人それぞれ。

私たちの周りには様々な「音」があります。人の声、自然環境の音、生活の音：どんな音を心地よいと感じるかは、人それぞれ。ある人にとっては心地よい雨音が、他の人には耳障りだったり、音楽を大音響で聴きたい気分の日もあれば、静かにしたい日もある…。その日の気分や、状況によっても、理想の音環境は違ってきます。

「見たくない」ものからは顔を背けることができますが「聞きたくない」音のコントロールは難しいもの。上手に周囲の音をコントロールして心地よく暮らしたい。自分の出す音で、周りの人を不快にしたいくない…誰もが抱くそんな思いに、スウェーデンハウスの窓はしっかりと応えます。

雑踏の騒音の中で、図書館の静けさを。

スウェーデンハウスに足を踏み入れ、窓を開める——誰でも最初は、その静けさに驚くはず。スウェーデンハウスの窓は3層ガラスの木製サッシ。その遮音性能を等級で表すと「t-2レベル」となり、閉めることで30デシベルもの音をカットできます。これは、騒々しい街の中にあっても、図書館並みの静けさを得られるというレベルで、一般のアルミサッシが等級外、ペアガラス入りのサッシがt-1レベルだということと考えると、そのレベルの高さが分かります。しかもスウェーデンハウスは気密性が高く分厚い壁や断熱材を

使用していることなども手伝って、家全体が音を入れにくい、音を漏らしにくい構造になっています。だから、住宅が密集する場所でも、交通量の多い道路沿いでも、プライベートゾーンの音環境を上手にコントロールでき、快適な室内環境を作り出せるのです。本来であれば音の通り道として、弱い部分であるはずの「窓」。しかし、スウェーデンハウスの場合は、その「窓」こそが「遮音」の鍵。しかも標準装備でありながら、高い気密性と遮音性を誇り、騒々しい街中であっても、静かな暮らしを実現してくれるのです。

子どもたちがのびのびと駆け回る時間を気にせずピアノを弾く、ホームパーティーが盛り上がる、音楽やホームシアターを迫力の音量で楽しむ…周りを気にせず何かを楽しめるということは、自分らしく、リラックスした状態でいられるということです。また、勉強や読書に集中したい時には、なるべく雑音のない方が良いでしょう。自然の音を楽しむ時もあるでしょう。静かな空間だから気づけることがあれば、様々な音の中から得られるものも多くあります。

我慢しないで、楽しむのが
スウェーデンハウス流。

ハンドルを回して、お好きな角度で窓を開けてください。スウェーデンハウスの窓ならば、「音環境」は我慢したり、気兼ねするものではなく、自分でコントロールするもの、楽しむものに変わります。

暑かった夏ももう終わり。心も身体もほっとする秋の夜長、心地よい音とともに、心地よい時間が、あなたの家にも流れますように。

※1 等級外～t-4レベルまであり、1等級違うと5デシベル分の音の透過を減らすことができる。